

# 女性活躍願うひな

## 一字一筆

静岡の今

3月3日は「桃の節句」。

古くからひな人形を飾り、桃の花、ひし餅、あらねなどを供えて祝う家庭も多い。起源は季節の節目である五節句の一つ「上巳(じようし)」の節句。女の子の厄よけ、健やかな成長と

健康を祈願するお祝いの日として定着し、宮中から貴族や武家社会に伝わり、その後、民間へと浸透したという。

この季節に、ひな祭りを「町おこし」につなげようとしている自治体もある。

袋井市で、「まちじゅうひなまつりプロジェクト」を始めて今年が4年目。1月1日から3月31日までの期

間、市内の商店や民家117カ所で様々なひな飾りが見られる。その「総本山」は曹洞宗・可睡斎(同市久能)である。日本最大級と言われる32段1200体のひな壇が、見るものを圧倒する。

たくさんのおひな様に見守られて静岡の女性は健やかに成長しているのか。判断は難しいが、「社会進出」を見てみよう。まず地方議会への進出を見ると、女性ゼロ議会は2市(下田市、御前崎市)6町(河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、長泉町、森町)。県内の22%で、朝日新聞社の全国議会アンケート(1月1日現在)による全国平均の19%を上回り、女性の議会進出はまだ少ないことを示している。また35市町のうち女性トップも2市(島田市、伊豆の国市)に過ぎない。

役所や会社の女性管理職(課長級以上)の登用率は、県庁9・7%(2017年度、全国22位)。18年度は10・7%になったが、県では「近い将来に15%を目指し、せめて全国10位くらいまで上げたい」(経営管理部)としている。

その日も可睡斎は「ひなまつり」を楽しむ人たちににぎわっていた。やはり女性の姿が目立った。全山では約3千体というおひな様が、訪れた女性たちの健やかな成長を穏やかに見守っていた。

(前静岡県監査委員・富永久雄)



可睡斎の巨大なひな壇=袋井市、全日写連・堀野良一さん撮影